
「経皮的血管拡張術(VAIVT)施行時における末梢感覚神経ブロックの疼痛緩和効果と周手術期看護の関わり」に関するお知らせ

このたび、当院で経皮的血管拡張術(VAIVT)施行時に末梢感覚神経ブロックを使用した患者さんの診療録を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2024年6月28日から2024年11月7日の期間に埼玉医科大学総合医療センター・血液浄化センターを受診し、VAIVT施行時に末梢感覚神経ブロックを使用した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

血液透析を安定して行うためには血液の出入り口であるバスキュラーアクセス(VA)の存在が不可欠です。VAとなる血管が狭くなったり、詰まったりして安定して使用できない状態をVA不全と言います。

経皮的血管拡張術(VAIVT)はVA不全に陥った血管の病変部を血管内からバルーンカテーテルで拡張する治療法です。

これはVAを持つ透析患者さんにとっては欠かせない治療法ですが、血管内腔をバルーンカテーテルで広げる際には痛みを伴うため、患者さんにとって負担が生じていました。この痛みは末梢感覚神経ブロックを使用することで軽減できることが近年知られています。

当院では2023年から一部の患者さんに対して、痛みを軽減するため末梢感覚神経ブロックを行っています。これが患者さんの痛みや負担の軽減につながっているかを調べるため、この研究を行います。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026年6月30日

4. 利用または提供の開始予定日

2025年3月6日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

看護記録に記載されたNRSスケールや、患者さんの発言の情報を収集します。

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者

である関根 陽子が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

埼玉医科大学総合医療センター・血液浄化センターを受診し、VAIVT 施行時に末梢感覚神経ブロックを使用した患者さんの診療録を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

- ・埼玉医科大学総合医療センター 血液浄化センター 関根 陽子（研究責任者）
- ・埼玉医科大学総合医療センター 血液浄化センター 瀬尾 季余子
- ・埼玉医科大学総合医療センター 血液浄化センター 菅原 舞
- ・埼玉医科大学総合医療センター 血液浄化センター 安田 多美子
- ・埼玉医科大学総合医療センター 血液浄化センター 清水 泰輔
- ・埼玉医科大学総合医療センター 血液浄化センター 小川 智也

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 別宮 好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 血液浄化センター 関根 陽子
住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981 番地
電話：049-228-3523（直通）（平日 8：30～17：30）

○研究課題名：経皮的血管拡張術（VAIVT）施行時における末梢感覚神経ブロックの疼痛緩和効果と周手術期看護の関わり

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 血液浄化センター 関根 陽子